



白聖

はくあ 第5号 令和8年6月1日発行

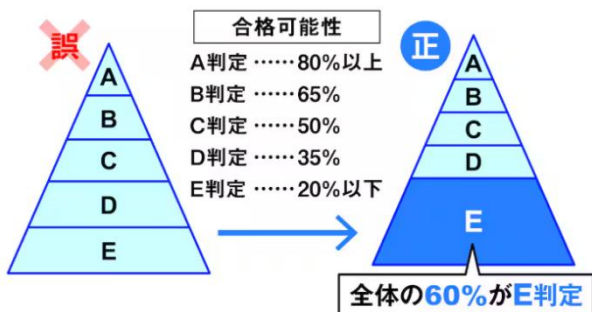


《意外と知らない模擬試験の合格判定》

3年生は4月初旬に受験した進研総合学力記述模試の受験結果が届いて、一喜一憂している人も多いと思います。どの大学に出願するのかを決めるときの判断材料として大きなポイントとなるのが、模擬試験の判定ではないでしょうか。模試の判定を見て「A判定だから第一志望校合格間違いなし!!」とか「D判定だから手が届かないかも、志望校を変えるべきか…」といったことを考える人もいます。模擬試験の判定は確かに志望校決定の参考にはなりますが、見方を誤ると自らの可能性を損なってしまう場合があります。判定を正しく活用するために、今回は意外に知られていない模擬試験の合格判定の仕組みについて解説していきます。

毎年延べ230万人が受験する大手予備校「河合塾」の模試を例にあげると、この判定の正式名称は「合格可能性評価」といいます。A判定なら合格率80%以上、B判定65%、C判定50%、D判定35%、E判定20%以下、といった具合で、15ポイント刻みで、志望する大学への合格の可能性を示しています。よくある誤解が、A～Eまで均等に2割ずつ分布している…という話ですが、これは間違いです。各ランクの受験者の分布は均一ではないため、実際はE判定がつく志願者は全体の60%に及ぶというのが正しい見方になります。

模擬試験の合格判定のイメージ(河合塾の場合)



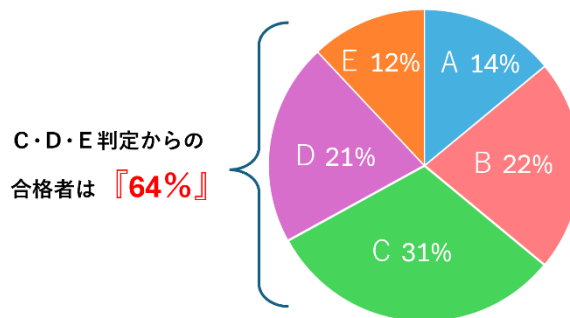
志願者の中で一番多い判定がE判定ということになるので、D判定なら「下から2番目の下位グループか…」と受け止めるのではなく「勝負できるところにいる」という見方ができます。上位40%に含まれているということは、上位層の辞退なども含めれば十分に勝負してもよ

い位置であり。合格可能性は十分あるということです。

進路指導部では、毎年3年生の受験動向を見て「早い段階でD、E判定で志望大学を諦めるのはもったいない」と考えています。模試の結果には、偏差値によって全国の受験生の中での立ち位置を客観的に把握することができるだけでなく、志望校の志願者数や自身の順位も明記されています。仮にE判定だったとしても、志願者全体から自身の実力がどの程度なのか、立ち位置を確認することが重要です。また、受ける模試によって元となる母集団のレベルや規模が大きく変わるため、模試毎に結果も変動します。一度や二度の模試結果で慌てるのではなく、長期的な視点をもって自分の成績の推移を分析しながら志望校を検討してほしいと思います。

判定は「現時点」の立ち位置に過ぎず、模試の判定はその時の実力を示したもので、判定よりも「何が足りないか」の分析が重要です。特に現役生は冬の追い込みで判定を大幅に覆すことが可能です。

某難関大学合格者の3年生7月模試判定データ



■ A判定 ■ B判定 ■ C判定 ■ D判定 ■ E判定

実際の入試データを見てみると、関西にある某難関大学合格者が3年生7月時点に受験した模試の判定は、C・D・E判定だった人が60%を超えています。A・B判定を合わせた36%よりも倍近く合格していることが分かります。7月から受験本番の2月まで半年間を諦めずに頑張り続けた結果、勝ち取った合格といえるでしょう。

実際に多くの青高卒業生が、最後の二次対策講習の追い込みで急激に実力を伸ばして合格を勝ち取ってきました。77回生の皆さんにも、第一志望校を諦めずに最後まで頑張り続けてほしいと願っています。

《模擬試験を受験するメリット》

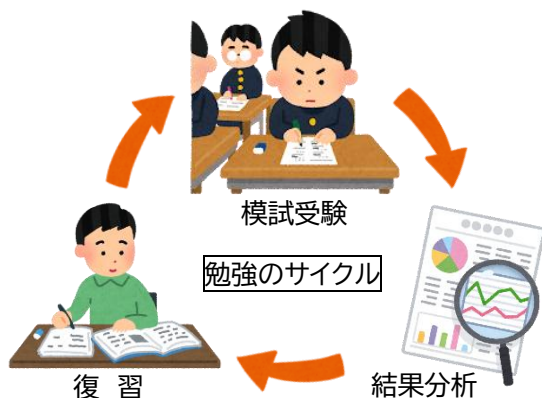
1・2年生は、6月末の「ベネッセ総合学力テスト」から模擬試験が始まります。3年生は、6月12日・13日に「進研大学入学共通テスト模試」の受験が控えています。模試の受験では、受験後に返却される志望校判定が一番気になるところでしょう。しかし、その結果に一喜一憂することにあまり意味はありません。模試はこれまでの学習成果を確認する場であるとともに、入試本番を想定した取り組みを試みる絶好の機会です。受験後の結果より、模試を受験するプロセスを大事にしましょう。

【①入試本番に近い雰囲気を感じられる】

大学入試では、緊張から自分の実力が思うように出せなかったり、限られた時間内に解答できなかったりすることがあります。しかし、本番の雰囲気に近い模試を経験することで緊張にも慣れ、試験時間の配分を考えることができるようになり、徐々に本番でも実力が出せるようになっていきます。大学入学共通テストの対策模試や特定大学の対策模試では、試験時間や問題冊子、解答形式なども本番の入試に準じています。予め何度も体験しておくことで、入試本番では落ち着いて受験に臨めるようになります。

【②普段の学習で気づかない弱点を発見】

緊張感をもって模試に臨むことで、日々の学習では気づかない自分の弱点を発見することができます。「分かっていたと思っていたのに出来なかった…」「単語力が足りないと感じた…。こうした気づきこそが模試受験の最大の目的です。模試を受けた時点での弱点に気づくことで、その後の具体的な学習指針が見えてきます。模試で解けなかった問題は、入試本番までに解けるようになります。大切なのは、復習して自分の弱点や反省点を振り返り、補強することです。



【③受験者の中での自分の位置が掴める】

全国規模の模試では、受験した教科の「偏差値」や「全国順位」が分かります。現在の自分の学力がどの程度の位置にあるのかを確認することができます。また、多くの模試では志望校判定を実施しています。同じ志望校の受験生がどの程度いて、現時点で自分がどの位置にいるのか確認できます。しかし、志望校判定を見て一喜一憂をすることはおすすめできません。判定はあくまで模試を受けた時点での合格可能性です。あまり楽観的にも悲観的にもならないようにしましょう。受験結果で大事なのは②で述べたように自分の弱点分野の把握と克服であることを心にとめておいてください。

【河合塾 Kei-Net より引用・抜粋】

《職員室前の掲示板を確認しよう》

3階の職員室と物理室前の廊下には色々なポスターやチラシなどが掲示されています。意識しなければ、何も知らないまま素通りしてしまうかもしれませんが、そこには皆さんの将来の可能性を伸ばしてくれる各種イベントの案内や情報が集まっています。職員室前には各種技能検定やボランティア活動の紹介、大学の公開講座や海外フィールドワーク参加募集などが紹介されています。物理室前にはSSH関連事業や数学オリンピックなどの理数系コンテストが紹介されています。どちらも皆さんの知的好奇心を刺激する取り組みが目白押しですが、これからの活動に興味・関心はありませんか。

高校生活で毎日の勉強や部活動に精を出すのは当たり前かもしれませんが、皆さんが持っている様々な資質や能力を発揮する場所は、何もそれだけではないはずです。校外の多様な活動に励むことで、学校生活の中では学ぶことができない貴重な体験をすることもあって、それがきっかけで進路目標が見つかることもあるかもしれません。また、大学入試で募集枠が増えている学校推薦型・総合型選抜へ向けた実績にも繋がられるかもしれません。是非とも積極的に活用して、自身の進路選択や可能性を伸ばすために役立ててください。

